

「そういうわけですから、賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、

よくよく注意し：15

I 「そういうわけですから」

= 「あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。一光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです—そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい」：8-10。

「(霊的に)眠っている人よ。目をさませ。死者(霊的に死んだような状態)の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる」：14。

光である神(Iヨハネ1：5)の御前で、ごまかさないうで正直に自分の罪を告白する私達を神は赦してください。世の光であるキリストは、私達の心を照らし罪を示し、赦しと救いの道を示し、歩くべき道を照らしてください。そのように真の光をいただいている。感謝します。こんな素晴らしい恵みをいただいているのですから→

II 「賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか」

1. 「賢くない(原語：賢くない、愚かな)人」とは。

①神の光、神の真理を持たない人。真の光を持たず霊的に盲目、暗闇の中にいる人。それに気づいていない人。

②主に喜ばれることを見分ける(：10)事をせず、自分が良いと思ったことを、すぐにやっちゃって、失敗し、後で後悔する。

「熱心だけで知識(主に喜ばれる事を知る)のないのはよくない。急ぎ足の者はずつまず。人は自分の愚かさによってその生活を滅ぼす」(箴言19：2, 3)。

愚かな人は、せっかち。何事でもすぐに、したがる。主に伺ってではなく、一呼吸を置かず、自分の衝動に従う。待つ時間を持たない。じっとしてられない。早急の結果を求める。神にじっくり祈る事をしない。

③主に喜ばれる実を結ばない暗やみのわざ(ひそかに行っていることは、口にすることも恥ずかしい：12)に仲間入り(：11)して、不品行、むさぼり、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、殺人、党派心、分裂、分派、ねたみ、酒にひどく酔い、悪い事をする等の罪の歩みをする人。

ガラテヤ5：19-21。

④霊的に眠っていて(：14)、主が再び来られることを忘れて生活している人。主の事を忘れ、主の事を思わないで生きている人。

⑤「わたしのこれらのことばを聞いてそれを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした」(マタイ7：26, 27)。

主のみことばを聞いても、その光を自分に当てず、自分のものとせず、主に抛り頼んで、そのみことばを土台とし、行おうとはしない人。主の御言葉、聖書の御言葉、キリストご自身を土台として歩まない人。あせりすぎ、地を深く掘る事をせず、しっかりとした土台を据えずに事を成してしまう。大きな試験がやって来ると持ちこたえられない。支えと思っていたものが、崩れて行く。最近の私達は、どうで

しょうか。

2. 「賢い（原語：知恵のある、賢い）人」。

行動を信仰と首尾一貫させる実際的な知恵のある人。キリストに、みことばの光に照らされて歩む人。

- ① 神の光、神の真理、神の知恵を持つ人。キリストに、みことばの光に照らされて歩む人。
- ② 自分の勝手な思いではなく、主に喜ばれることは何かを、主に祈りつつ見分けて歩む人。
- ③ 霊的に眠っていた事、自分の罪を悔い改め、霊的に目を覚まし、主と共に歩む人。
- ④ 真の光である内住のキリストによって善意（善、善良、正しさ。自己満足の善意ではなく、主からの識別力のある愛の善意。悪意は、人の事を悪く取り、悪く言いふらす。真の善意は、罪を指摘しても、相手が立ち直る事を心から願う）と正義（義、正義、公正。神の目に正しい）と真実（神と隣人に誠実）な実を結ぶ人。
- ⑤ 「わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行う人たち…その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せたときも、しっかり建てられていたから、びくともしませんでした」（ルカ6：47、48）。
賢い人、智慧のある人は、せっかちではない。あせらない。自分の考え、衝動で急がない
→ 「その人は、地面を深く掘り下げ」。深く掘り下げ、そこにおられる岩であられる主に拠り頼み、「岩（主という不動の岩）の上に土台を据えて」、「それから」家を建てた。はやる衝動、自分を御聖霊により自制し、主に伺い、主に喜ばれる事は何かを深く掘り下げ考える。そして、主の御言葉、主の御心、主の喜ばれる事を見分けて行う。

Ⅲ 「よくよく（精密、詳細、丹念に）注意」する（気を付ける、用心する）。

徹底した自己点検が求められている。

祈り：暗やみから、救いの光に入れられたことを感謝します。私自身が、真の賢さ、知恵の源である主の御言葉を無視して歩むのではなく、賢い人のように主に御言葉に照らされて、性急ではなく、じっくりと主と交わり、自分の勝手な思いではなく、主の喜ばれる事は何かを見分けながら歩むことが出来ますように。